



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	オホーツク海の水産資源と漁協の取組
Author(s)	新谷, 哲章
Relation	Sustainability Weeks 2009 Opening Symposium "International Symposium on Sustainable Development -Recommendations for Tackling the 5 Challenges of Global Sustainability-". Session 6, Toward the Creation of a New Framework in the Global Warming Era. 2 November 2009. Sapporo, Japan.
Issue Date	2009-11-02
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/40108
Type	conference presentation
File Information	6-2Shinya.pdf



オホーツク海の水産資源と 漁協の取組

網走漁業協同組合

理事・漁場環境保全委員長 新谷 哲章

網走市の位置



オホーツク沿岸の漁業生産量

オホーツク海
Sea of Okhotsk

網走市
Abashiri

北海道
Hokkaido

◎オホーツク沿岸の漁業生産量＝**50万トン**

ホタテガイ、サケ・マス・スケトウダラ・ホッケ
ケガニ・キチジ・タコ・カレイ・ナマコなど

※日本の海面漁業生産量(437万トン)の**11%**

(2007年)

(漁業生産量は農水省平成19年漁業・養殖業生産統計・北海道水産現勢)

網走市の主要産業



農・畜産業

270億円

農業加工

200億円

470億円

漁業

124億円

水産加工業

170億円

294億円

764億円

観光業

観光客入込み数 約137万人

(2008年 網走市統計より)

網走の漁業

特徴

主要河川の下流に『汽水湖』があり
河川汚濁の影響が湖に現れやすい。

海面漁業(オホーツク海)

漁獲量 52,600トン

金額 107億円

シロザケ、ホタテガイ、スケトウダラ
など多様な魚種

西網走漁協

能取湖

網走湖

内水面漁業(4つの汽水湖)

漁獲量 5,300トン

金額 17億円

ワカサギ、ヤマトシジミなど

オホーツク海

網走漁協

藻琴湖

濤沸湖

藻琴川

浦士別川

網走川

(漁獲量・金額は2008年)

漁業とは

自然の再生産力を
復元可能な範囲で利用している産業

資源管理

作り育てる漁業

自然の再生産力



漁場環境が保全されて
はじめて成り立つ産業

漁場環境をとりまく問題

海

- ・油田・タンカー事故の脅威
- ・アムール川からの汚染物質流入の脅威
- ・アムール川流域の自然環境悪化の影響

湖沼

- ・水質悪化
海水流入の増大による
底層無酸素層の拡大
過大な栄養塩の流入による
アオコの発生
- ・土砂流入による埋積 など

河川と流域

- ・過去の河川改修による河川環境の悪化
- ・魚類通行を阻害する河川構造物
(治山ダム・頭首工など)
- ・土砂流入
- ・化学肥料による地下水の窒素汚染

網走川

川と流域への対応

川 → 排水路化(樋のような川)

山 → 治山ダム(流域生態系の分断)

畑 → 土砂流出

網走東部森づくりセンター管轄内 343基
うち魚道等の魚類通行の改善箇所 18基

きちんと主張し 理解してもらう必要がある



「漁業から考えた河川環境保全指針」を作成
(2006年6月)

河川に関わりが強い農業・林業・漁業などの一次産業が自然と共存して持続的に発展していくことが重要であり
それによって地域の中心的な産業としての地位を高めていく方向づけが必要です。

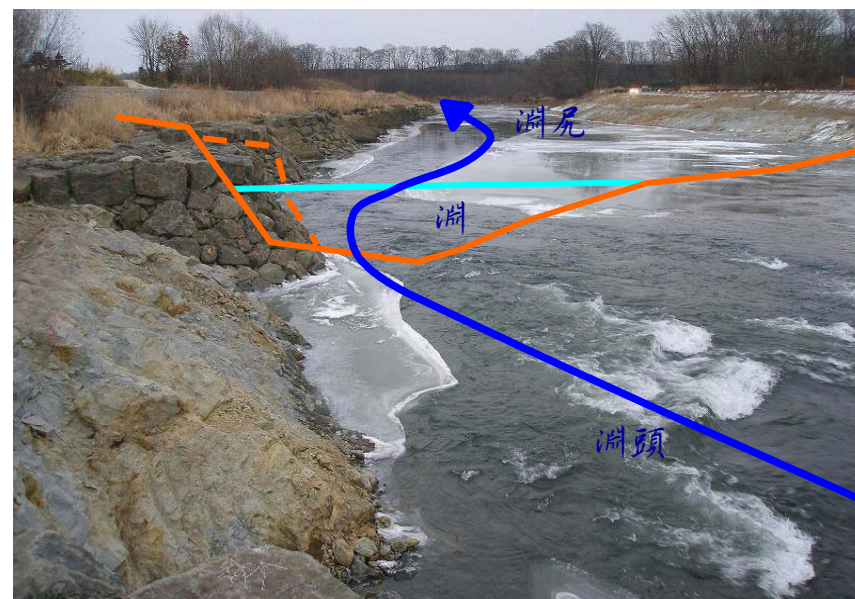
「漁業から考えた河川環境保全指針」(網走市か先頭漁場保全対策協議会)より

河川改修工法の改善 (網走川)

川の生態系を保全する方向への転換



従来は
河川改修で**樋**のような川に
魚類等生物にとって
劣悪な河川環境
(岩盤掘削で平らな岩河床となった箇所)



近自然工法 の採用により
淵の創出と、川の営力を利用
した淵と瀬の維持を図り、川の
生態系を復元

(西日本科学技術研究所所長 福留脩文氏の
指導による)

治山ダム等への疑問

山を治めるのに治山ダムが必要か？



コンクリート一辺倒の治山ダム事業

針葉樹一辺倒の森林整備

に疑問

森林整備・治山事業検討委員会

北海道が設置(2008～2010) 現在まで3回開催

北海道初の実施

「治山土砂流出の防止、溪流環境の連続性など森林の公益的機能の維持・増進を図るため、
森林整備および治山事業のあり方について検討する」(網走東部森づくりセンター)

流域内の連携

漁業の側からできることはすすめているが

『流域の環境問題』は

上流の人達（農業）と共に取り組まないと

解決できない



環境保全型農業を積極的に推進している

JAつべつ との連携

津別町にはサケ孵化場が2施設（収用卵数 4,960万粒）

JAつべつ との連携

農業・漁業懇談会 (2006～)

- ・相互理解に努める
- ・共通の認識に立つ

農業・漁業連携フォーラム の開催(2009) 《環境と共存し持続的に発展可能な産業を目指す》

農業・漁業連携フォーラム

『網走川流域における一次産業の連携で何が出来るか？』

～ 津別農業と網走漁業の連携による大きな可能性～

主催 津別町農業協同組合 網走漁業協同組合 西網走漁業協同組合

今後 具体的な取り組みを進めたい